NPO法人
原発ゼロ市民共同 かわさき発電所 ニュースレター

第7号

でん太通信

den ta tu～sin

●発行　2015.3.15　NPO 法人原発ゼロ市民共同かわさき発電所

●発行責任者　川岸卓哉

■原発ゼロへのカウントダウン in かわさき集会 報告■

理事　川口 洋一

当会の展示ブース
ソーラーパネルで発電した電気で走るミニカー

2015 年３月８日８時、会場の中原平和公園にはすでにテント搬入のトラックが到着し、テント組立の人たちもその周りに集まっている。「参加団体のブースの準備作業に間に合わせるため、テント 11 張りを 10 時までに組み上げてください」との監督の号令で作業開始。小雨がぱらつき、北風が強い。寒い１日になりそうで参加者の出足が気にかかる。

１０時 30 分開場のあと、三嶋共同代表、丸山事務局長と一緒にテントを回って参加団体にごあいさつ。おにぎりを売り歩いている川岸さんにばったり、高菜入りおにぎりを買う。寒いので餅入りトン汁や焼いた牡蠣に熱燗などの温かいものが人気。希望のつばさプロジェクトでは、鹿児島の向原さんと福島の根本さんを囲んでミニ交流集会、これも人気でおよそ 30～40 人が参加。

12 時、野外音楽堂で文化行事開演。参加者も増え、座席の半分以上は埋まっているかな・・。本日のスペシャルゲストの海渡雄一弁護士が，憲法学者の小林 節さんと並んで座っている。グループ乱打夢の和太鼓演奏を聴いて、二人して「いいね～。元気が出るね～」とうなづきあってる。12 時 50 分、海渡さんを案内して舞台裏に向かう。

13 時、開会。4 人のスペシャルゲストのお話し。
①生業を返せ、地域を返せ、福島原発訴訟原告団の原告証言集を編集している根本 仁さんは「原発事故の被害を受けて」
②川崎医療生協ふじさきクリニック所長で、マーシャル諸島ビキニ水爆実験被害者救援などに取り組んでいる 竹内啓哉医師は「いま、子どもたちの被ばくは」
③反原発かごしまネット代表で、九州電力川内原発の再稼働に反対して活動している向原祥隆さんは「原発再稼働反対運動の最前線から」
④大飯原発再稼働差し止め弁護団長の海度雄一さんに「司法の力で原発を止める」です。

当会の活動をアピールする君嶋さん

その後の「川崎から脱原発！リレートーク」では、川崎、横浜、横須賀で活動している 10 団体の方々が、3 分間の持ち時間で次々と話題提供。石のベンチに座っていると寒さひとしをだが、途中退席する人はほとんどなし。「原発の再稼働をやめること」などを求める集会アピールを全員の拍手で採択し、集会終了。参加者は、およそ 900 名。

当会のテントでは、アート部によるプロモーションビデオの上映コーナーを設置して観ていただき、食べ物部門では焼き鳥 200 本、生ビール、おにぎり 200 個が好評にて完売。

15 時、予定を 30 分過ぎてのデモ出発。先頭に海渡さん、向原さんも加わって出発です。元住吉の駅で 2 人に別れ、私たちはにぎやかな音楽と一緒にサウンドデモを続け、武蔵小杉の中原市民館前で流れ解散。

■川崎市エネルギー取組方針案に対する意見書を提出しました■

「“川崎らしい”エネルギーの取組推進に向けて－川崎市エネルギー取組方針－」のパブリックコメント募集に際し、当ＮＰＯとして意見書を提出しました。要旨は以下のとおりです。

第１　原発に頼らない社会の創設を方針に明示

今回の方針案は、東京電力福島第１原子力発電所事故を契機とした方針の見直しとされています。原発の是非については議論のあるところですが、国、地方自治体においても、原発に頼らない社会の創出は共通認識となっています。市のエネルギー方針にも、原発に頼らない社会を作るという方針を明示すべきだと考えます。

第２　再生可能エネルギー普及方針の強化を明示

市の「地球温暖化対策推進基本計画」におけるエネルギー関連の基本施策のうち、太陽光利用量を３０倍にすることを目標としてあげ、これらの「計画を着実に推進していく」としています。しかしながら、現段階の増加傾向のままでは、３０倍の目標達成は困難となっています。市としては、当初の計画を実現するため、国の政策に対しても意見表明し、また、他の自治体の太陽光発電推進の取り組みを取り入れるなど、再生可能エネルギー普及方針の強化の方針を明示すべきです。

第３　目指すべき都市像として公害を繰り返さない市民自治の環境都市

川崎市は、公害の被害の歴史を持つ都市です。そこには、公害の被害根絶のための市民の歴史があります。そして、これに対応する行政の救済制度創設のための努力、事業者の技術革新の歴史があります。今回の方針案においても、川崎市は、公害の歴史を忘れない、繰り返さないため、経済発展だけでなく市民一人ひとりを大切にする、市民自治の環境都市としての都市像を掲げるべきです。

第４　エネルギー協議会の設立と行政内の専門部署の創設

方針案では、「多様な主体の協働によるエネルギーの取組の推進」として、既存の枠組みである「川崎温暖化対策推進会議の活用」を取組の方針としてあげています。

しかし、総合的にエネルギー問題に取り組むためのエネルギー協議会創設をすることが望まれます。加えて、川崎市においても、行政内において、エネルギー問題について専門の担当部署を創設すべきです。

第５　中小事業者の支援の視点も持ったエネルギー方針の策定

例えば、飯田市、小田原市などでは、地域の再生可能エネルギーの利益を地域の企業に還元するため、再生可能エネルギーに取り組む企業への助成支援事業の制度などを創設しています。そのような取り組みを取り入れて、広く再生可能エネルギーの利益を市内の中小企業業者に還元できるように、中小企業支援の視点も持った方針とすべきです。

理事長　川岸卓哉

■自己紹介コーナー■　No.7

今月号は、町井弘明さんです。

野外活動とものづくりで人生を楽しむ

生まれは満州の鞍山です。３ 歳で三重県に引き上げ貧困生活がしばらく続きました。でもその頃の自然体験で生きる技を身につけました。クズ（金属）拾い、川で泳ぎ魚を取ったり、どじょうを取ってうなぎ屋に売って小遣いを稼ぎました。当時アイスが５円、アンパン１０円でした。名古屋の大学でしたが就職に失敗し、もう２年修士課程に進み、教員免許に必要な科目を他の大学で聴講生でとり、神奈川で高校の理科の教師になりました。

大学ではワンダーフォーゲル部４年間で 120 日山に行っていました。

川崎に来てすぐ「川崎から公害をなくす会」に入り、喘息患者さんの支援活動、市に公害対策を迫る交渉など頑張ってきました。科学と住民を結ぶパイプ役を果たそうと努力しました。

地域では子どもと遊ぶことを今やっています。夏休みは 40 人くらいで２泊キャンプやっています。今年で９年目です。べっこうあめ、こんにゃくは手作りで、イベントで結構儲かります。古代発火法を普及する仕事もしています。

生田浄水場存続運動はいよいよ裁判です。遠くのまずい地震で管が壊れて水が送れない小田原の水を買うなという裁判です。４ 月２０日１０時半の横浜地裁の裁判傍聴お願いします。また水の川柳大会３月２２日までにどしどし送ってください。4月１８日（土）12 時 JR 稲田堤駅下車右の多摩川方面に歩いて５分の稲田公園で発表会です。花見をしながらお酒も飲みます。おつまみお酒持参でおいでください。

理事　町井 弘明

■NPO 法人 原発ゼロ市民共同かわさき発電所■
ホームページ
http://genpatuzero-hatuden.jimdo.com/
フェイスブック
https://www.facebook.com/genpatuzero.hatuden
連絡先　TEL　090―7948―6189（川岸）

【編集後記】

一生懸命に生きている。人間をはじめとする地球上に棲む生き物すべてが生きようとする強い意志をもって懸命に生きている。その懸命に生きようとする意志を根底から覆した４年前の３・11 の福島原発事故。これは人災。人間は愚かだけど、失敗から学ぶことはできる。もう二度と原発事故を起こしてはならない！今、地球上から原発をなくす決意をしなければ。（加藤伸子）